

第五十四回

岡山後楽能

2024年

11月3日(日・祝)

岡山

後樂園
能舞台



おかやま県民文化祭参加

令和六年十一月三日(日・祝)

十時開場

第54回 岡山後楽能

岡山後楽園能舞台

第一部 十時三十分開演

喜多流大島会社中発表会

第二部 十三時十五分開演

解説(本日の演目について) 大島輝久

狂言 千鳥

太郎冠者 田賀屋夙生

主人 島田洋海 後見 茂山虎真

酒屋 茂山千五郎

休憩

十四時過頃

一調 龍田

謡 大島輝久

太鼓 梶谷義男

子方(源義経) 荒木七海

後シテ(平知盛の霊)
前シテ(静御前)

大島衣恵

大鼓 守家由訓 太鼓 梶谷英樹

ワキ(弁慶) 岡 充

小鼓 横山幸彦 笛 八木原周平

ワキツレ(從者) 原 陸

アイ(船頭) 島田洋海

吉田道弘 大島輝久

後見

地謡

高林呻二
高林昌司

松井俊介 出雲康雅
長田郷 大島政允
森直樹 松井彬

■ 曲目解説

□ 狂言「千鳥(ちどり)」

酒屋にツケである内々の通いのおもてを全く支払わない主人に仕える太郎冠者。また例の如く主人から酒代の代わりなしに酒を求めてくるよう言いつけられます。機転の効く太郎冠者はあの手この手を使い酒を持ち帰ろうと企みます。酒屋が話好きなのを利用し、尾張の津島祭へ行く道中や祭の見どころをネタに酒屋の隙を狙います。酒屋とのセリフの掛け合いの妙に謡、舞が話を賑やかに演出し、盛り上げます。

狂言の登場人物の代表ともいえる太郎冠者。古典狂言約百八十番の中でも名曲の太郎冠者物の代表作です。

□ 能「船弁慶(ふなべんけい)」

兄頼朝と不和になり、西国へ落ち延びてゆく源義経の一行は尼崎大物浦に到着します。弁慶の進言を受けて、これまで供をしてきた静御前を都へ帰すことにします。別れを悲しむ静でしたが、最後の酒宴に烏帽子を着して、義経の境遇を慰め一行の門出を祝して健気に舞い納めると、出発してゆく二行を涙ながらに見送るのでした。

瀬戸内海へと漕ぎ出した一行の船。ところが次第に風雨が激しさを増し、辺りにはただならぬ雰囲気となります。そして海上には平家一門の亡霊が現れ、総大将の平知盛の霊が長刀をふるって一行に襲いかかります。義経は刀で応戦し、弁慶は懸命に祈って対抗すると怨霊の姿は消えゆくのでした。

鑑賞料 (全席自由席)

前売券 (後楽園入園券付)	5,000円
当日券 ※当日券は能舞台で販売します ※後楽園入園券は別途お買い求めください	学生券 2,000円

※後楽能YouTubeチャンネル
当公演の能・狂言の解説動画がご覧になれます→
YouTubeページから『岡山後楽能』で検索



チケット販売窓口

岡山後楽園 TEL.086-272-1148
喜多流大島能楽堂 TEL.084-923-2633
www.noh-oshima.com
茂山狂言会事務局 TEL.075-221-8371
天満屋バスステーションチケットセンター
TEL.086-231-7679
ぎんぎやプレイガイド TEL.086-222-3244
チケットぴあ <https://t.pia.jp> (Pコード:528-046)
※後楽園入園券は付きません

主催 岡山能楽振興会 共催 岡山県 後援 岡山県教育委員会 山陽新聞社 岡山県郷土文化財団

問い合わせ 岡山能楽振興会 TEL&FAX. 086-466-6516 岡山後楽園 TEL.086-272-1148 喜多流大島能楽堂 TEL.084-923-2633